

西部福祉センターに関する市民アンケート

1.調査の概要

- 1) 調査期間：令和5年9月26日～10月16日
- 2) 方法：戸田市民から下記の条件で1,000名を抽出
 - ①地区別人数
美女木地区・笹目地区…各350人
新曽地区・下戸田地区・上戸田地区…各100人
 - ②男女別人数
各500人
 - ③年齢階層
下限を12歳とし、上限は設けない（基準日は令和5年4月1日現在）。
無作為抽出結果
10代（12歳～）72人、20代115人、30代114人、40代189人、
50代201人、60代114人、70代以上195人（うち70代113人）
- 3) 回答者数：計402人（紙面336人、WEB66人）
- 4) 回答率：40.2%
住所別、年代別の回答率は下表のとおり。

表 4.1-1 住所別、年代別の回答率

		抽出数（人）	回答者数（人）	回答率（%）
住所	美女木地区	350	132	37.7
	笹目地区	350	135	38.6
	新曽地区	100	49	49.0
	上戸田地区	100	40	40.0
	下戸田地区	100	43	43.0
	その他	0	3	—
年代	10代（12歳～）	72	17	23.6
	20代	115	24	20.9
	30代	114	31	27.2
	40代	189	72	38.1
	50代	201	76	37.8
	60代	114	67	58.8
	70代以上	195	115	58.9

- 5) 主な内容：①回答者の属性
 - ②西部福祉センターの利用について
 - ③西部福祉センターと美笹中学校の複合化について
 - ④市内に3つある福祉センター（公民館）について

2.調査結果

2.1 回答者の属性

(1) 性別（回答者数 401 人）

- ・ 回答者は、6割が女性であった。

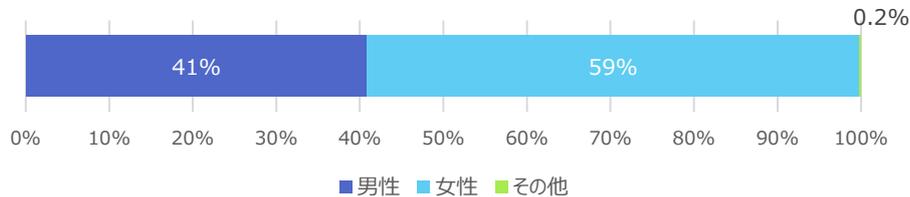


図 2-1 回答者の性別

(2) 年代（回答者数 402 人）

- ・ 70代以上の回答者が最も多く、3割程度であった。次いで「50代」「40代」「60代」の回答者が多かった。

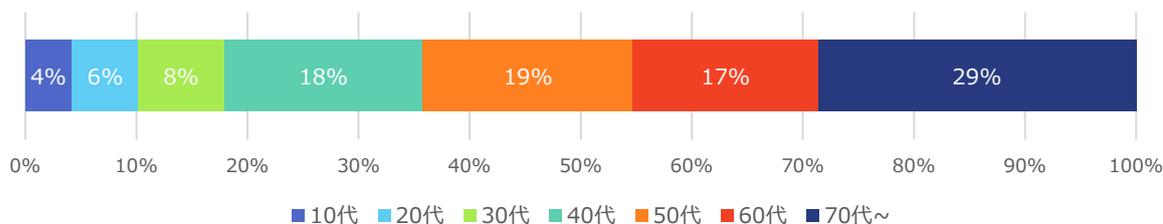


図 2-2 回答者の年代

(3) 住所（回答者数 402 人）

1) 全体

- ・ 戸田市西部福祉センターが立地する「美女木地区」、隣接する「美笹地区」にお住まいの方の回答が多く、あわせて約7割であった。
- ・ 住所別でアンケート配布数が異なり、配布数に対する回答率は、「新曽地区」が最も高く49%、次いで「下戸田地区」が43%であった。

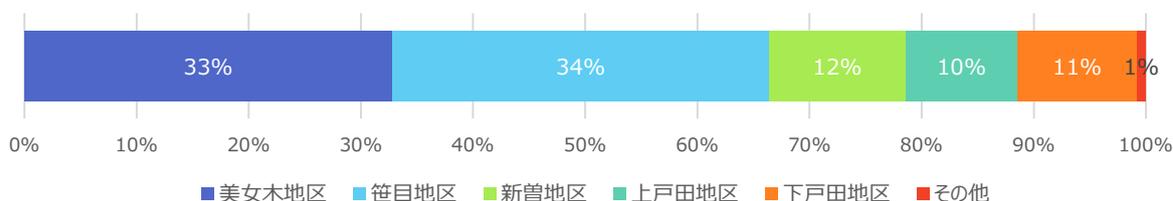


図 2-3 回答者の住所

2) 年代別(回答者 402 人)

住所別に年代の回答率を算出し比較を行った。

- ・ 「美女木地区」「笹目地区」は同様の傾向を示した。
- ・ 「新曽地区」「上戸田地区」は、回答者の6~8割が50代以上であった。
- ・ 「下戸田地区」は、回答者の9割近くが50代以上であった。
- ・ 10代の方で回答があったのは、「美女木地区」「笹目地区」「新曽地区」であった。

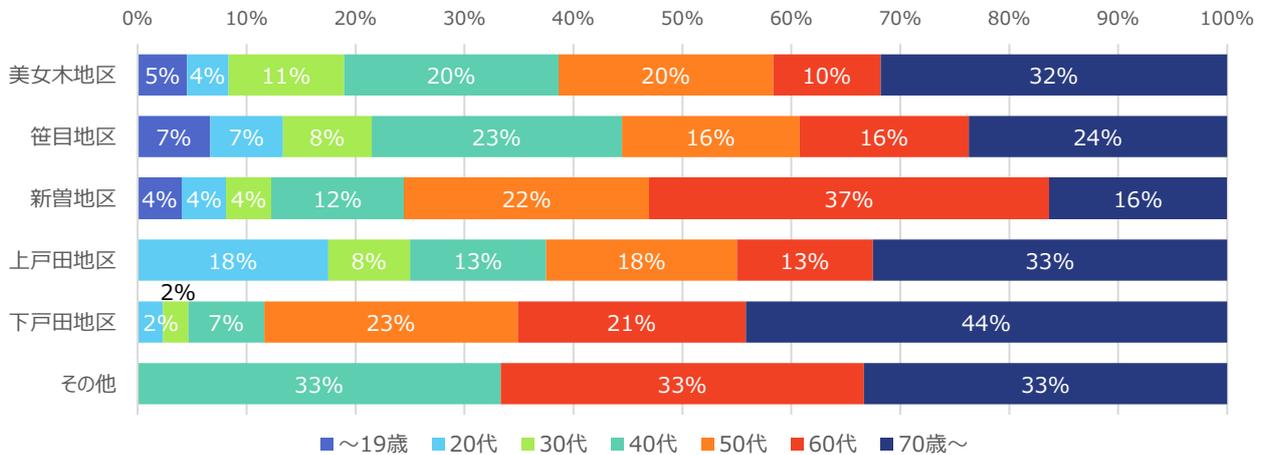


図 2-4 年代別の住所

(4) 職業 (回答者数 400 人)

- ・ 「フルタイム(常勤)の正社員・被雇用者」の方が最も多く、次いで「パートタイマーまたはアルバイト」「年金生活者」の方が多かった。

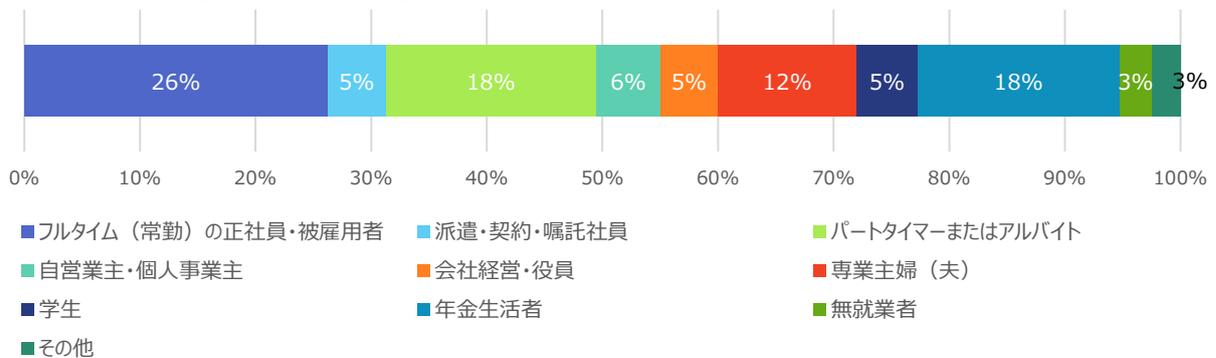


図 2-5 回答者の職業

- ・ 「無就業者」と回答した10人の、年代の内訳は、70代以上が7人で最も多く64%であった。
- ・ 次いで50代が2人、40代、60代が1人ずつであった。

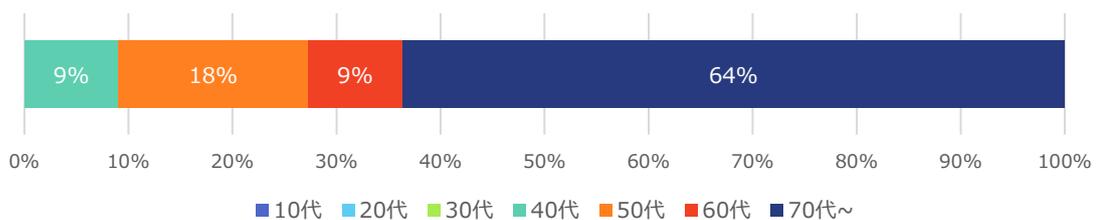


図 2-6 「無就業者」の年代

(5) 自宅や学校や職場以外で居心地よく過ごせる場所（3つまで回答）

1) 全体（回答者数 392 人）

- ・ 「飲食店」とした方が 184 人で最も多く、回答者の 5 割近かった。
- ・ 次いで「公園」が 140 人で、回答者の 4 割近かった。

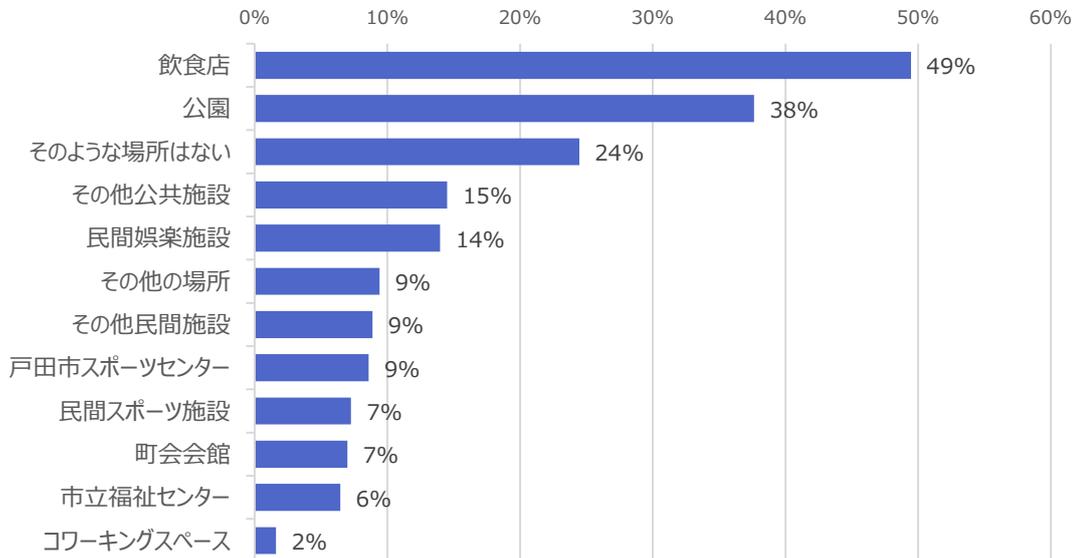


図 2-7 自宅や学校や職場以外で居心地よく過ごせる場所

- ・ 「その他公共施設」と回答した 54 人中 39 人から具体的な場所の回答があり、下記の通りであった。
 - 図書館（21 人）
 - 笹目コミュニティセンターコンパル（7 人）
 - 上戸田地区交流センターあいパル（6 人）
 - 戸田市立児童センター（プリムローズ、戸田市こどもの国）、彩湖・道満グリーンパーク、博物館・美術館、戸田市文化会館・音楽ホール、小中学校の体育館
- ・ 「その他民間施設」と回答した 33 人のうち 20 人と「その他の場所」と回答した 2 人からその他民間施設の具体例の回答があり、下記の通りであった。
 - ショッピングモール（13 人）
 - ネットカフェ、温泉、園芸店、本屋、サウナ、映画館、デパート、ボートコース、ホームセンター、ゴルフ場
- ・ 「その他の場所」と回答した 35 人中 14 人からその他の場所の具体例の回答があり、下記の通りであった。
 - 自宅、友人宅、キャンプ場、自然を感じる場所、砂浜、土手、旅先、車・ドライブ、路上、デイサービス所

2) 年代別（回答者 398 人）

年代別に居心地よく過ごせる場所の回答率を算出し比較を行った。

- ・ 「飲食店」は、70代以上が特に少ない割合であった。それ以外の年代では、4割以上が回答した。
- ・ 「公園」は、10代および30代が高い割合を示し約5割であった。20代は2割程度と少ない割合であった。
- ・ 「戸田市スポーツセンター」は、10代が高い割合で、3割を超えた。
- ・ 「市立福祉センター」「町会会館」は、70代が高い割合で、2割程度であった。

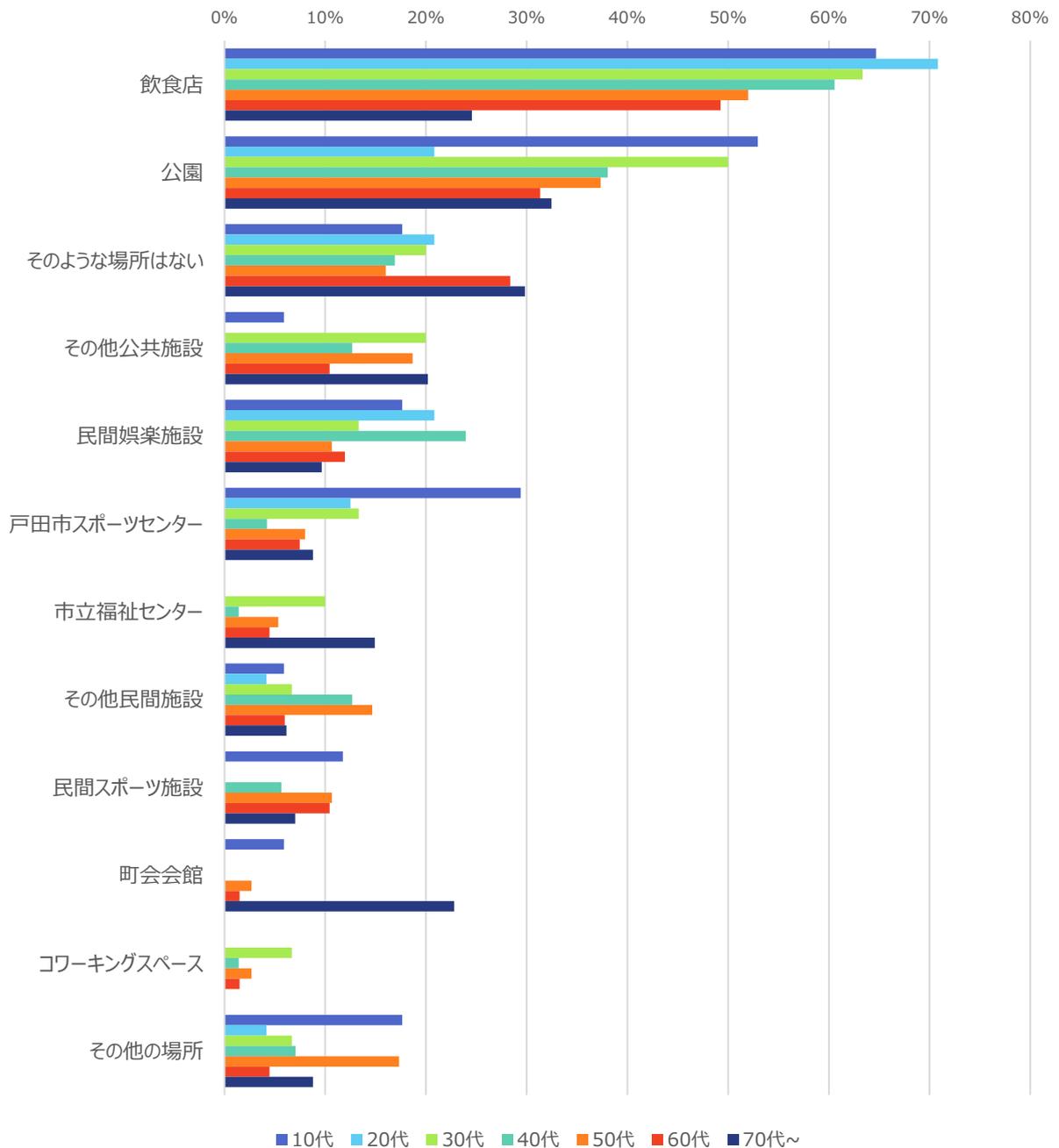


図 2-8 年代別の居心地よく過ごせる場所（年代別）

3) 職業別（回答者 396 人）

職業別に居心地よく過ごせる場所の回答率を算出し比較を行った。

- ・ 「飲食店」「公園」は、「無就業者」が特に低い割合であった。それ以外の職業では、3割以上の回答があった。
- ・ 「民間娯楽施設」は、「フルタイム（常勤）の正社員・被雇用者」が高い割合を示した。
- ・ 「戸田市スポーツセンター」は、「学生」「無就業者」が高い割合を示した。
- ・ 「市立福祉センター」「町会会館」は、「無就業者」の4割近くが回答しており、公共施設を活用していることが伺えた。

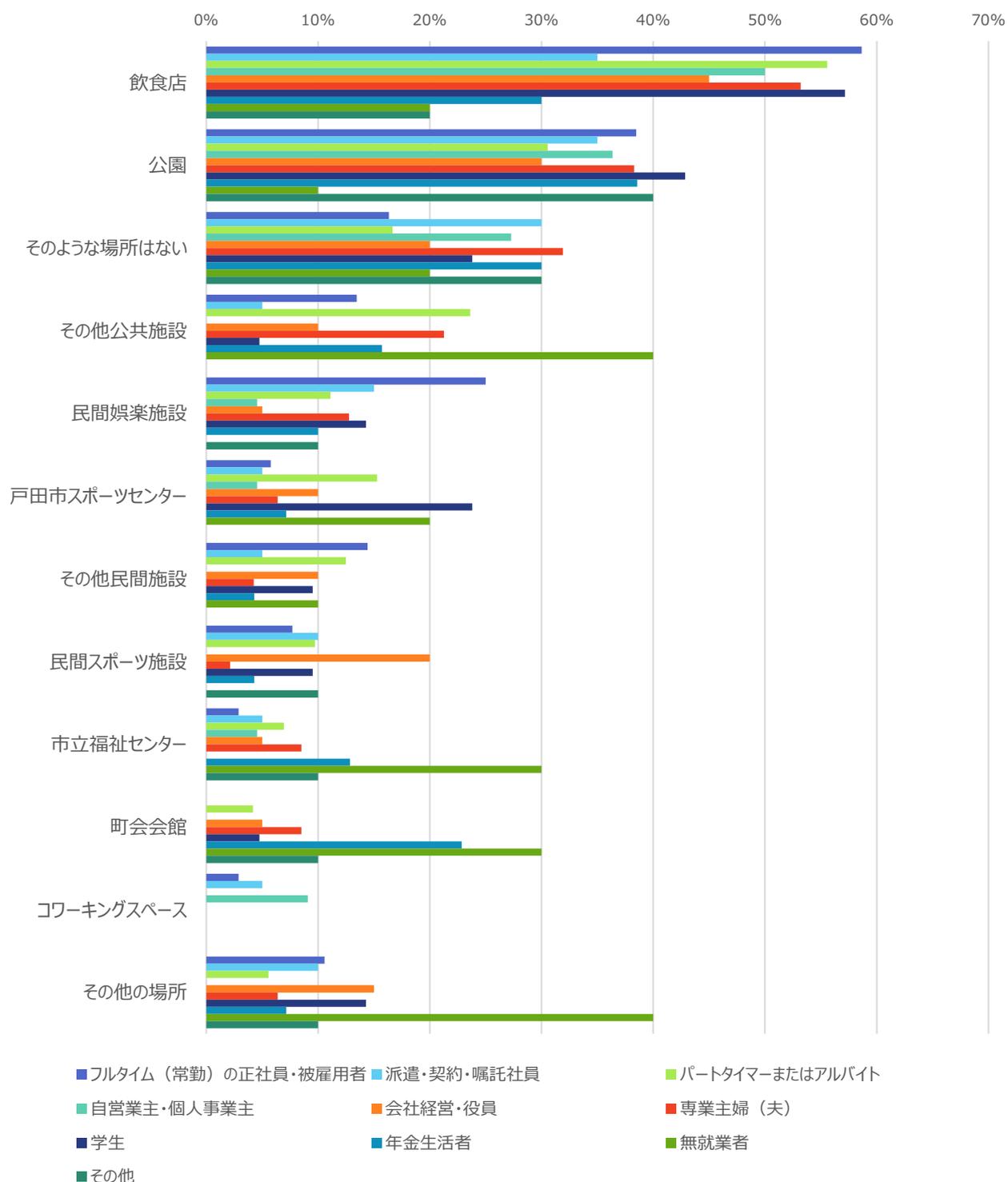


図 2-9 年代別の居心地よく過ごせる場所（職業別）

2.2 西部福祉センターの利用について

(1) 利用頻度

1) 全体（回答者数 400 人）

- ・ 5 割以上の回答者が、「利用したことがない」方となった。
- ・ 「ほとんど利用しない」と回答した方も、2 割を超えた。
- ・ 「ほぼ毎日」と回答した人はいなかった。

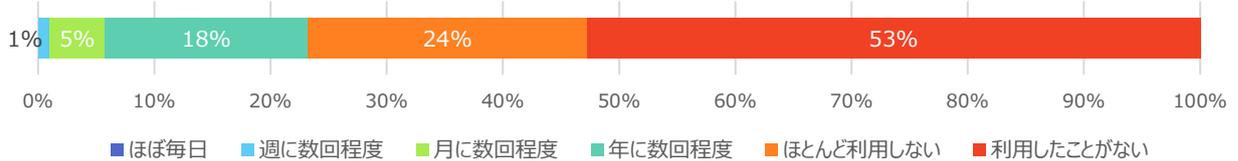


図 2-10 回答者の利用頻度

2) 年代別（回答者数 400 人）

年代別に利用頻度の回答率を算出し比較を行った。

- ・ 年代によらず、同様の傾向を示した。
- ・ 「週に数回」と回答した方は、30 代、70 歳以上のみであった。

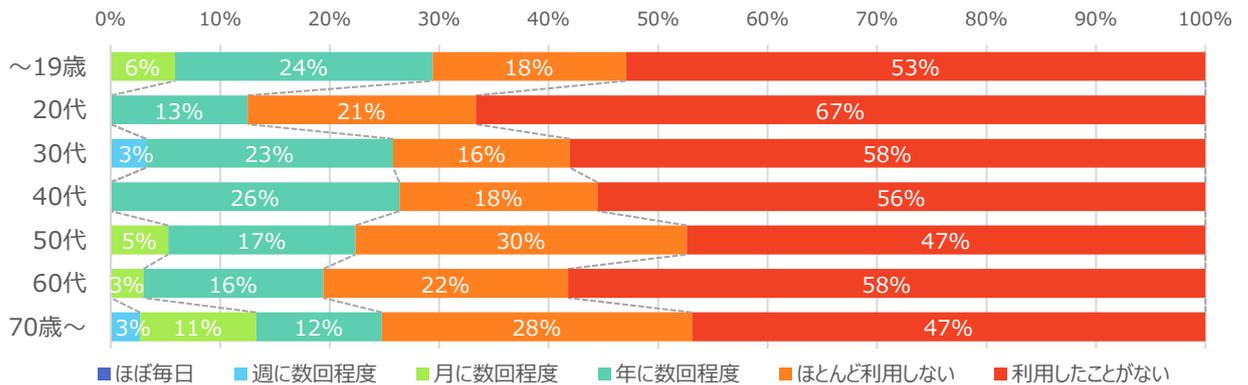


図 2-11 利用頻度（年代別）

表 2-1 利用頻度（年代別）の回答数

	ほぼ毎日	週に数回程度	月に数回程度	年に数回程度	ほとんど利用しない	利用したことがない	無回答他	有効回答数
～19 歳	0	0	1	4	3	9	0	17
20 代	0	0	0	3	5	16	0	24
30 代	0	1	0	7	5	18	0	31
40 代	0	0	0	19	13	40	0	72
50 代	0	0	4	13	23	36	0	76
60 代	0	0	2	11	15	39	0	67
70 歳～	0	3	12	13	32	53	2	115

- ・ ここで「ほぼ毎日」～「年に数回程度まで利用したことがある人」の割合を「利用率」として年代ごとに比べると下表のとおりとなる。
- ・ 年代による明らかな傾向は認められないことがわかる。

表 2-2 年代別の利用率 (%)

	～19 歳	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 歳～
利用率 (%)	33.3	13.0	26.7	26.1	20.0	18.5	24.1

3) 住所別 (回答者数 400 人)

住所別に利用頻度の回答率を算出し比較を行った。

- ・ 西部福祉センターが位置する美女木地区から遠いほど、「利用したことがない」と回答した方の割合が高かった。
- ・ 「美女木地区」「笹目地区」では、3 割程度の方が「年に数回程度」以上の利用があった。

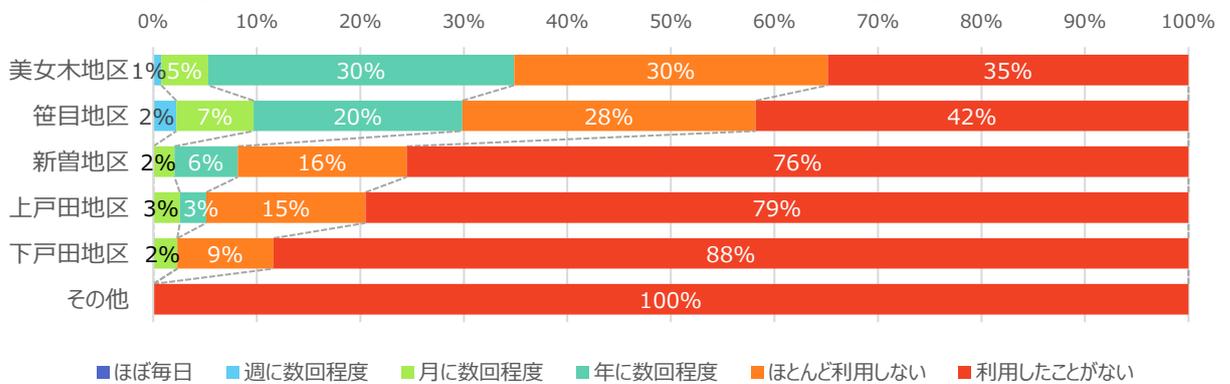


図 2-12 利用頻度 (住所別)

表 2-3 利用頻度 (住所別) の回答数

	ほぼ毎日	週に数回程度	月に数回程度	年に数回程度	ほとんど利用しない	利用したことがない	無回答他	有効回答数
美女木地区	0	1	6	39	40	46	0	132
笹目地区	0	3	10	27	38	56	0	135
新曽地区	0	0	1	3	8	37	0	49
上戸田地区	0	0	1	1	6	31	0	40
下戸田地区	0	0	1	0	4	38	0	43
その他	0	0	0	0	0	3	0	3

4) 職業別（回答者数 400 人）

職業別に利用頻度の回答率を算出し比較を行った。

- ・ 「派遣・契約・嘱託社員」の方は、「ほとんど利用したことがない」「利用したことがない」が9割を超えた。
- ・ 「自営業主・個人事業主」「会社経営・役員」「専業主婦（夫）」「学生」「無就業者」の方は、3割程度が「年に数回程度」以上利用している。
- ・ 「週に数回程度」と回答があったのは、「パートタイマーまたはアルバイト」「専業主婦（夫）」「年金生活者」の方のみであった。

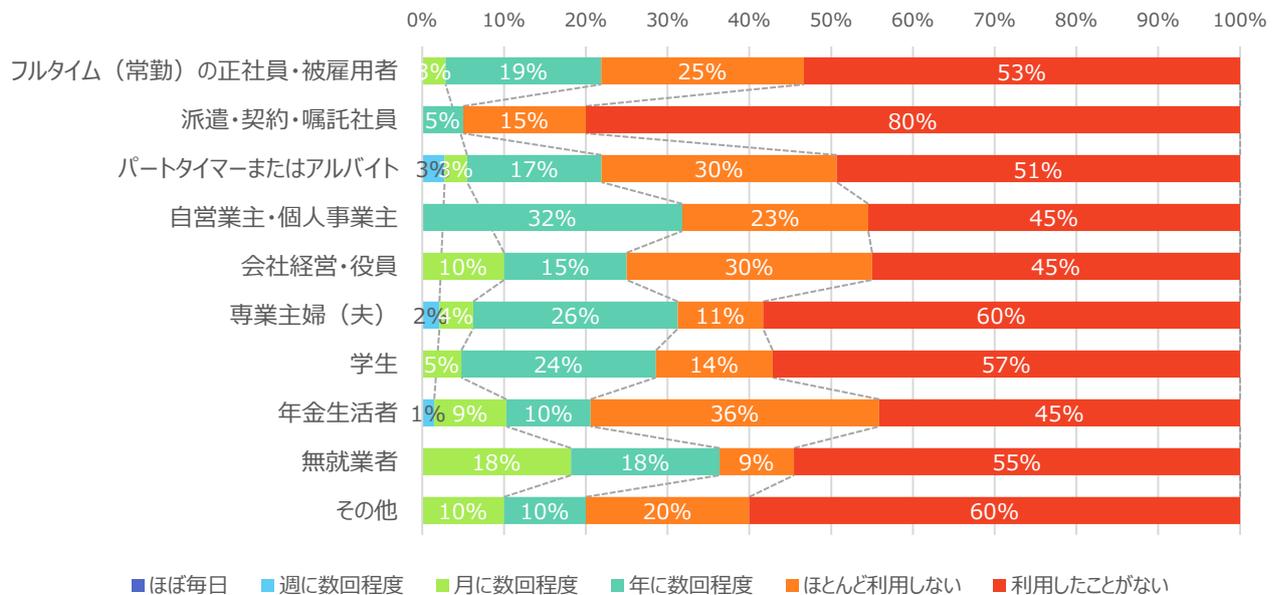


図 2-13 利用頻度（職業別）

表 2-4 利用頻度（職業別）の回答数

	ほぼ毎日	週に数回程度	月に数回程度	年に数回程度	ほとんど利用しない	利用したことがない	無回答 他	有効 回答数
フルタイム（常勤）の正社員・被雇用者	0	0	3	20	26	56	0	105
派遣・契約・嘱託社員	0	0	0	1	3	16	0	20
パートタイマーまたはアルバイト	0	2	2	12	21	36	0	73
自営業主・個人事業主	0	0	0	7	5	10	0	22
会社経営・役員	0	0	2	3	6	9	0	20
専業主婦（夫）	0	1	2	12	5	28	0	48
学生	0	0	1	5	3	12	0	21
年金生活者	0	1	6	7	24	30	2	70
無就業者	0	0	2	2	1	6	0	11
その他	0	0	1	1	2	6	0	10

(2) 利用目的

1) 全体（回答者数 91 人）

- ・ 「各種手続き」が最も多く 6 割近かった。
- ・ 次いで「本を読む、学習」が 3 割程度であった。
- ・ その他と回答した 11 人中 6 人からその他の内容について回答があり、以下の通りであった。
 - 図書の貸出・返却など図書館利用（4 人）
 - 子どもの習いごと（ダンスレッスン）、健康診断

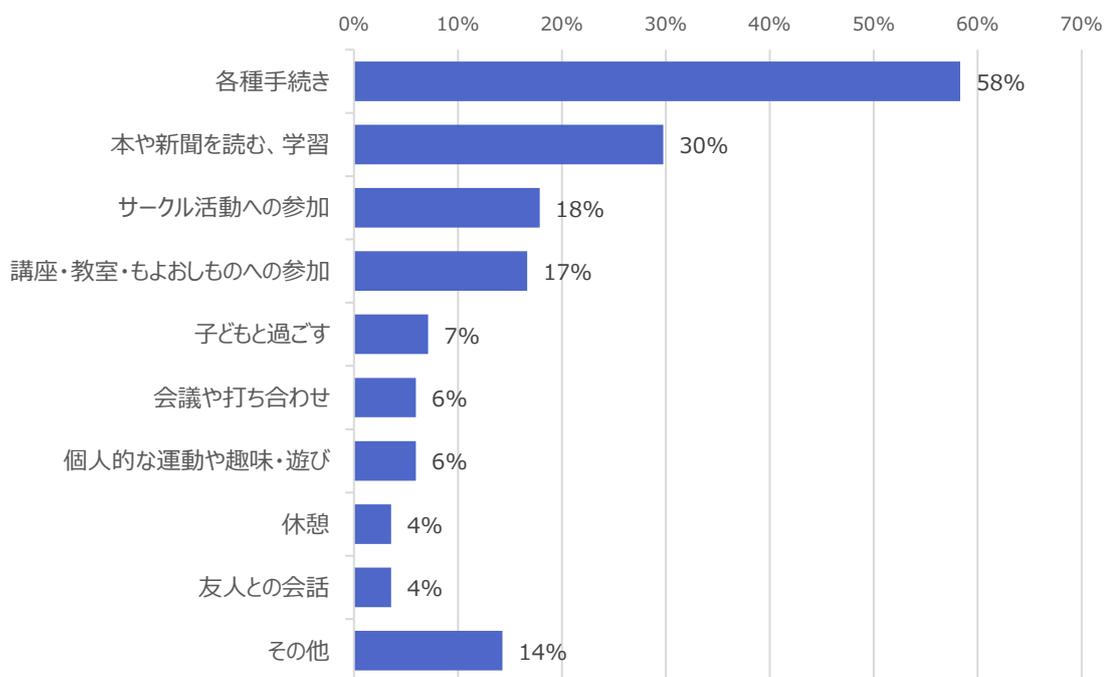


図 2-14 西部福祉センターの利用目的

2) 年代別 (回答者数 91 人)

年代別に利用目的の回答率を算出し比較を行った。

- ・ 「各種手続き」は、30代が特に少ない割合であった。それ以外の年代では、4割以上の方が手続きで訪れていることとなった。
- ・ 「本を読む、学習」は、10代の全員が選択しており、10代の方は図書館が目的で来館しているものと思われた。
- ・ 「講座・教室・催しものへの参加」は、60代、70代が高い割合となり、「サークル活動への参加」は、70代が高い割合となった
- ・ 「子どもと過ごす」は、20~40代のおよそ2割の方が選択していた。

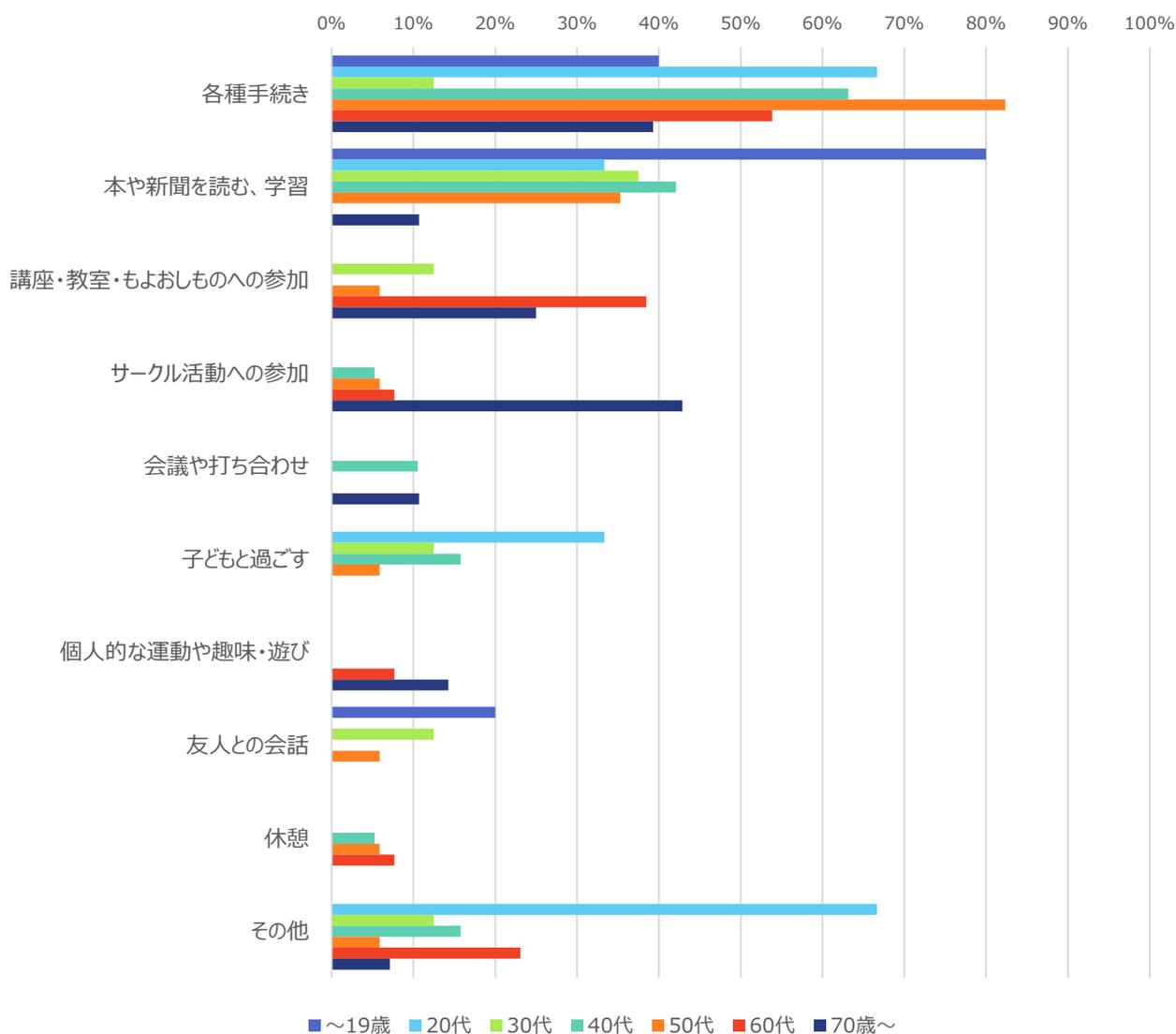


図 2-15 利用目的 (年代別)

3) 職業別（回答者数 91 人）

職業別に利用目的の回答率を算出し比較を行った。

- ・ 「各種手続き」は「派遣・契約・嘱託社員」が特に高い割合を示したが、そのほかの職業でもいずれもほぼ半数以上が選択していた。
- ・ 「本や新聞を読む、学習」は、「学生」が7割と高い割合を示した。
- ・ 「サークル活動への参加」は、「無就業者」と「その他」が高く、5割近くが回答した。

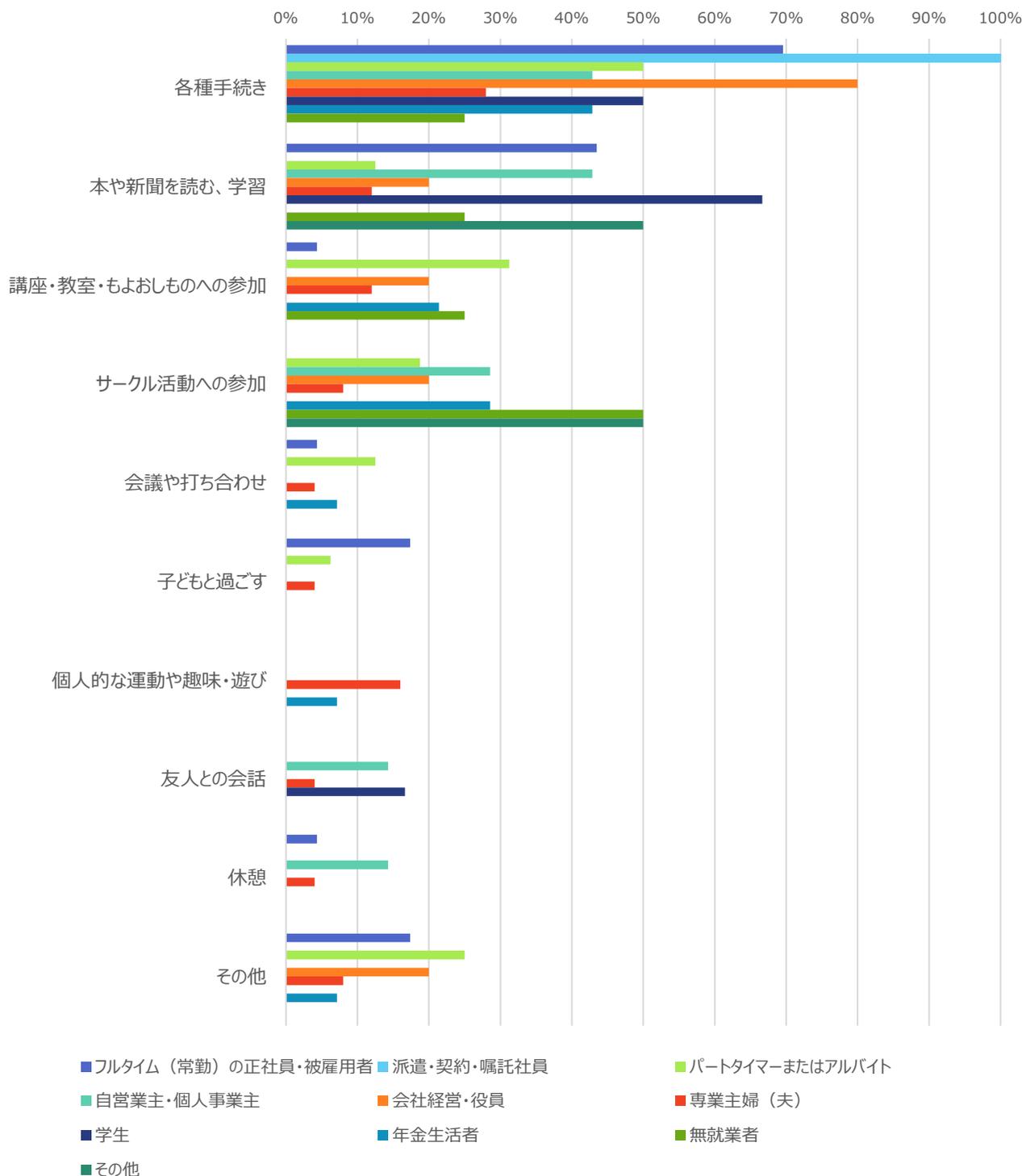


図 2-16 利用目的（職業別）

(3) 利用しない理由

1) 全体（回答者数 305 人）

- ・ (1) で「ほとんど利用しない」「利用したことがない」と回答した 307 人中 303 人から回答があった。
- ・ 「利用する必要があるから」「近くにないから」が多く、5 割程度であった。
- ・ 次いで「利用できることを知らなかったから」が 2 割程度であった。

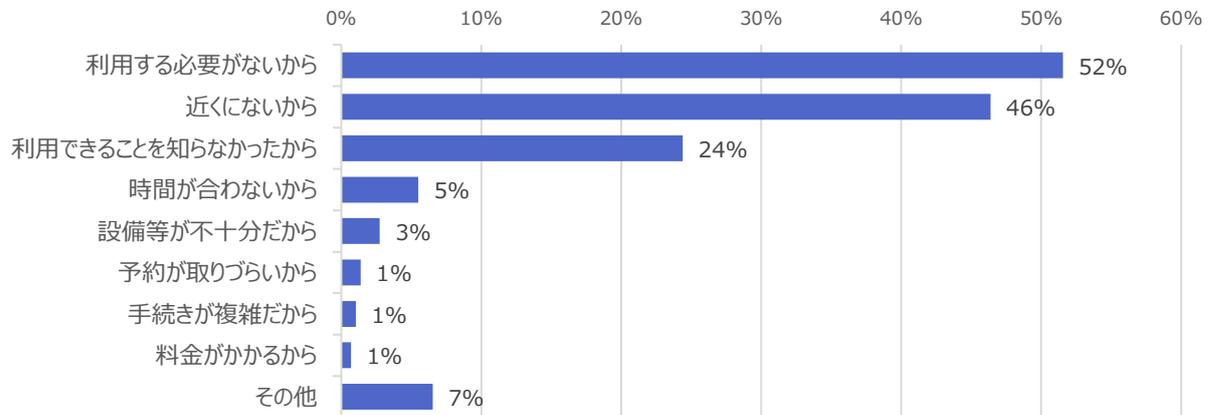


図 2-17 西部福祉センターを利用しない理由

2) 年代別（回答者数 303 人）

年代別に利用しない理由の回答率を算出し比較を行った。

- ・ 「利用する必要がないから」を理由にあげた方は、4～6割であった。
- ・ 「近くにないから」を理由にあげた方は、30代以外は、4～5割を示したが、30代は2割程度であった。
- ・ 「利用できることを知らなかった」は、60代、70代では2割以下であるが、30代から60代は3～4割となった。

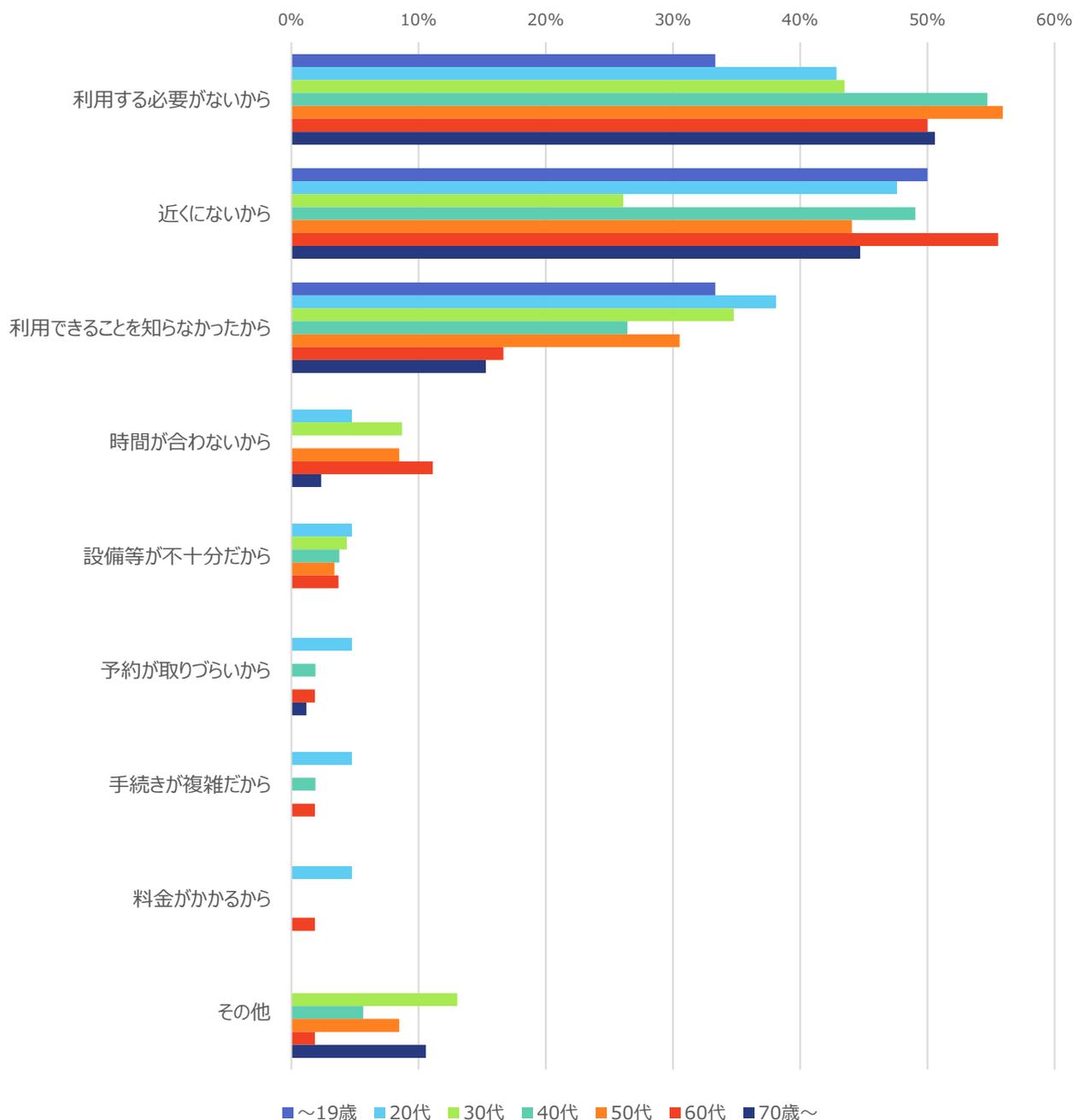


図 2-18 西部福祉センターを利用しない理由（年代別）

3) 住所別（回答者数 303 人）

住所別に利用しない理由の回答率を算出し比較を行った。

- ・ 「近くはないから」は、西部福祉センターから遠い「新曽地区」「上戸田地区」「下戸田地区」の方が高い割合を示した。
- ・ 西部福祉センターの立地する「美女木地区」、隣接する「笹目地区」の約 3 割が、「利用できることを知らなかったから」と回答した。

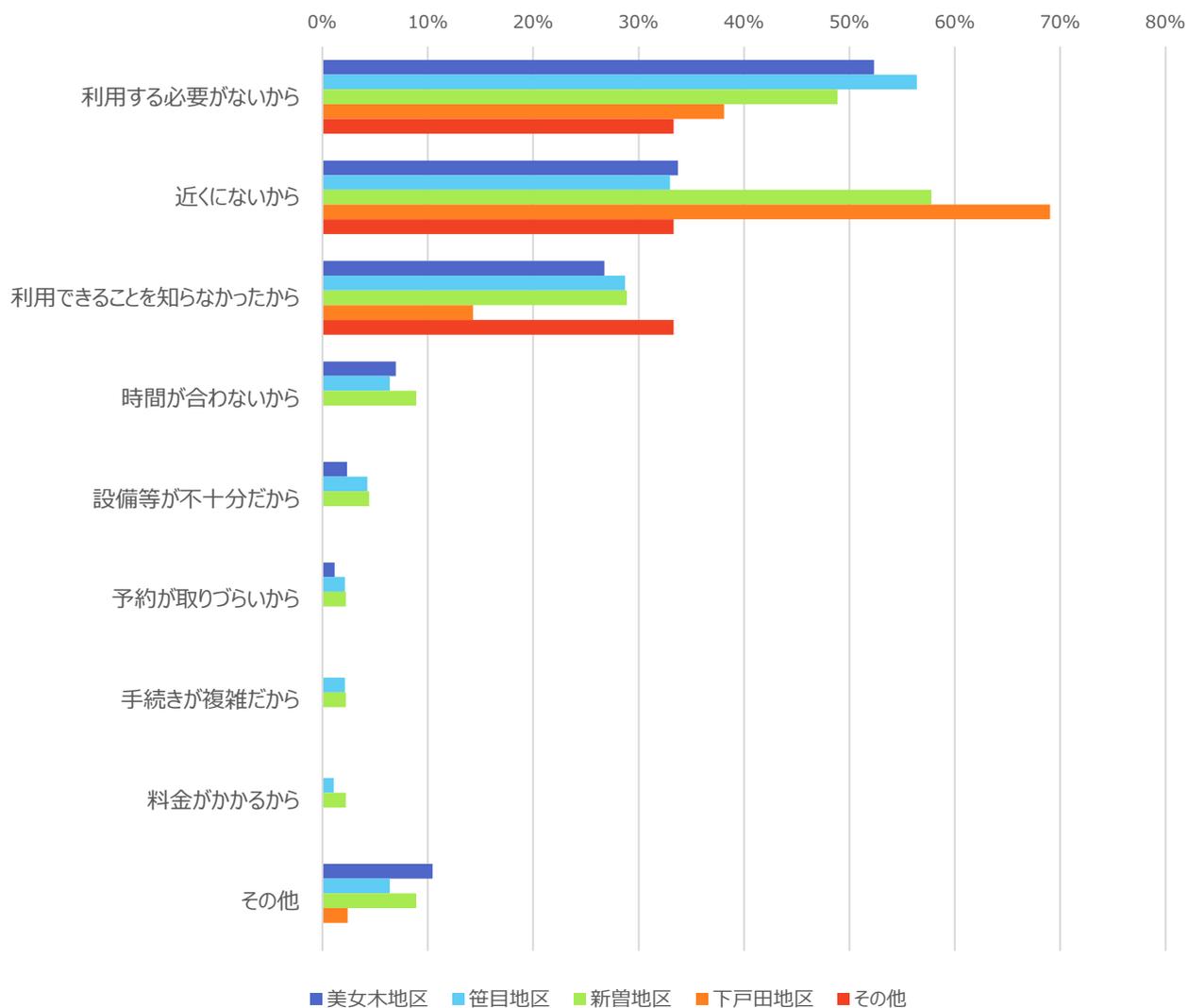


図 2-19 西部福祉センターを利用しない理由（住所別）

4) 職業別（回答者数 301 人）

職業別に利用しない理由の回答率を算出し比較を行った。

- ・ 「利用する必要がないから」は、職業によらず高い割合を示し、特に「無就業者」の方の 8 割以上が回答した。

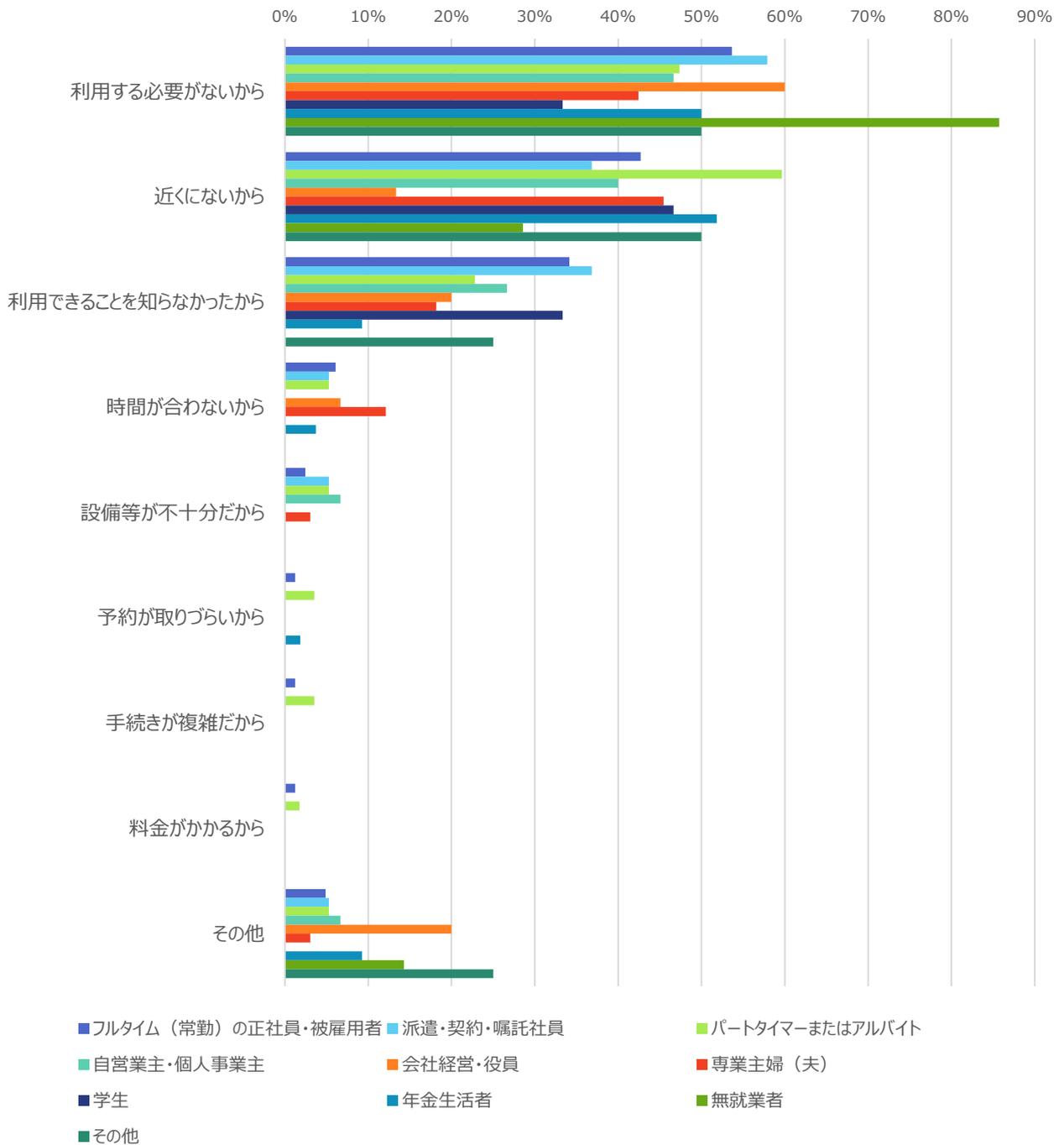


図 2-20 西部福祉センターを利用しない理由（職業別）

(4) 西部福祉センターのイメージ (回答者数 365 人)

- ・ 「わからない」を選択した方が5割以上となった。

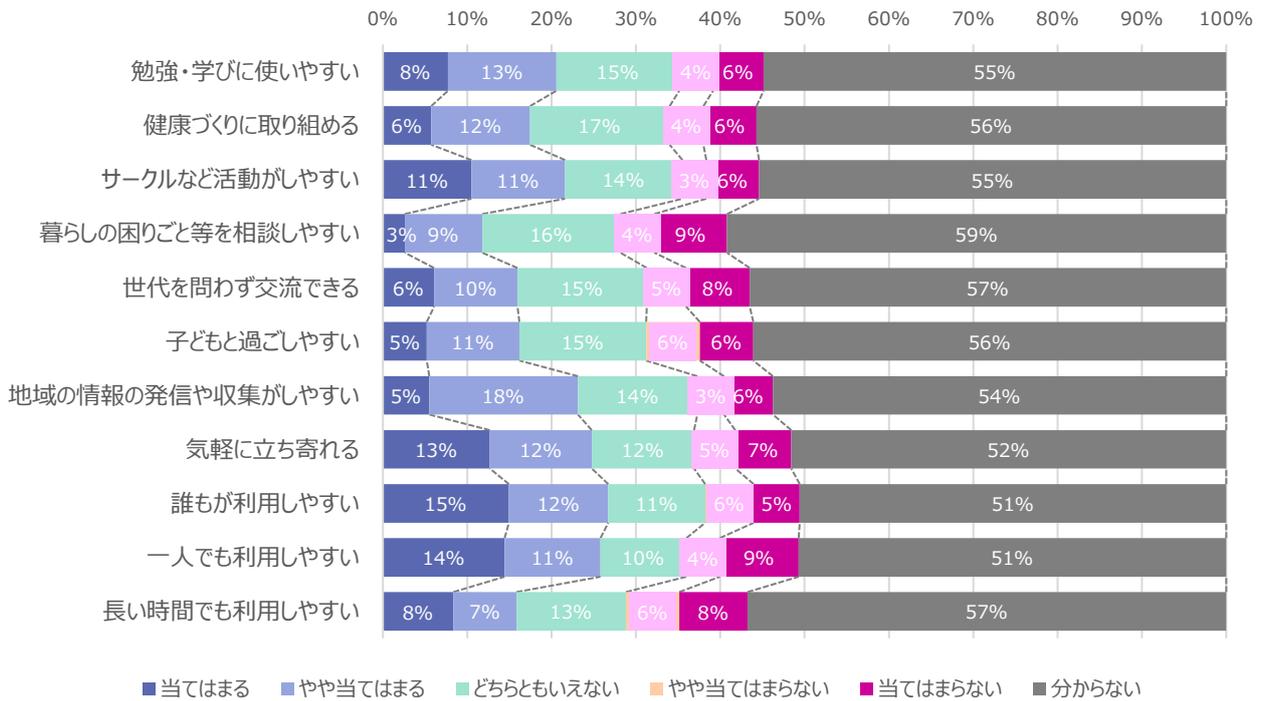


図 2-21 西部福祉センターのイメージ

表 2-5 西部福祉センターのイメージ 回答数

	当てはまる	やや当てはまる	どちらともいえない	やや当てはまらない	当てはまらない	分からない	無回答 他	有効 回答数
勉強・学びに使いやすい	27	45	51	14	21	192	15	350
健康づくりに取り組める	20	41	58	14	22	195	15	350
サークルなど活動がしやすい	37	39	49	10	22	195	13	352
暮らしの困りごと等を相談しやすい	9	32	57	14	30	206	17	348
世代を問わず交流できる	21	34	53	16	26	195	20	345
子どもと過ごしやすい	18	38	52	22	22	194	19	346
地域の情報の発信や収集がしやすい	19	61	49	11	20	186	19	346
気軽に立ち寄れる	44	42	42	17	23	179	18	347
誰もが利用しやすい	52	41	40	20	19	176	17	348
一人でも利用しやすい	51	40	36	14	33	179	12	353
長い時間でも利用しやすい	29	26	45	22	28	197	18	347

評価について以下のように点数化し、平均点を算出した。

「当てはまる」＝1点、「やや当てはまる」＝2点、「どちらとも言えない」＝3点、「あまり当てはまらない」＝4点、「当てはまらない」＝5点

- ・ 「サークルなど活動がしやすい」「勉強・学びに使いやすい」「誰もが利用しやすい」の評価が高いことが伺えた。

表 2-6 表 評価点数の平均

順位	項目	平均評価点
1	誰もが利用しやすい	2.52
2	気軽に立ち寄れる	2.61
3	サークルなど活動がしやすい	2.64
4	一人でも利用しやすい	2.67
5	地区の情報の発信や収集がしやすい	2.70
6	勉強・学びに使いやすい	2.74
7	健康づくりに取り組める	2.86
8	子どもと過ごしやすい	2.93
9	長い時間でも利用しやすい	2.94
10	世代を問わず交流できる	2.98
11	暮らしの困りごと等を相談しやすい	3.17

2.3 西部福祉センターと美笹中学校の複合化について

(1) ご自身、ご家族、ご親族で市内の小・中学校に通っているか通う予定がある人があるか（回答者数 399 人）

- ・ 「いない」と回答した人が7割以上であった。

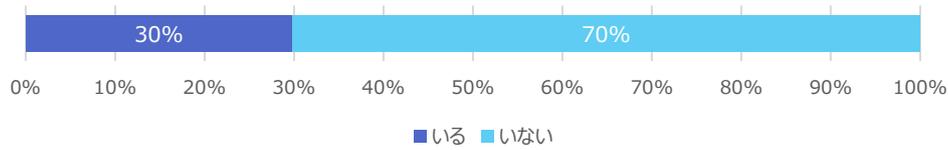


図 2-22 市内の小・中学校に通っているまたは通う予定がある人

表 2-7 市内の小・中学校に通っているまたは通う予定がある人 回答数

選択肢	回答数
いる	119
いない	280
無回答他	3
有効回答数	399

(2) 複合化により1つの施設になることについてどう思うか

1) 全体

- ・ 「市民が利用できる時間が限られてしまう」「空き教室などを市民が使い、施設が有効活用される」「ハード面のコストが削減できる」は、「思う」「やや思う」とした人が6割を超えた。

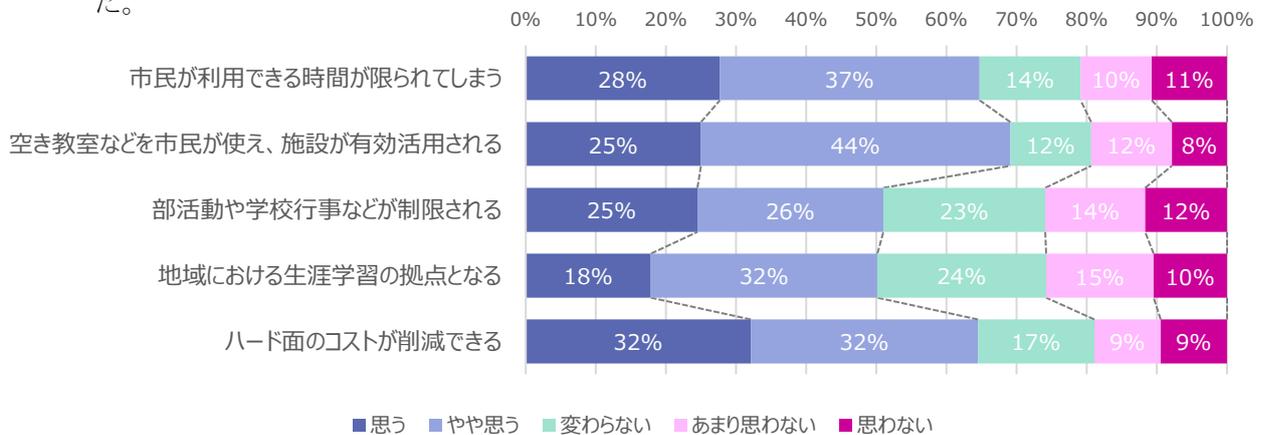


図 2-23 複合化により1つの施設になることについての考え

表 2-8 複合化により1つの施設になることについての考え 回答数

	思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	思わない	無回答他	有効回答数
市民が利用できる時間が限られてしまう	98	131	51	36	38	9	354
空き教室などを市民が使い、施設が有効活用される	89	157	41	41	28	9	356
部活動や学校行事などが制限される	86	93	81	50	41	10	351
地域における生涯学習の拠点となる	63	114	85	54	37	11	353
ハード面のコストが削減できる	112	113	58	33	33	9	349

2) ご自身、ご家族、ご親族で市内の小・中学校に通っているか通う予定がある人がいるかどうか別

身内の方に小中学生がいるかどうか別で、『複合化により1つの施設になることについての考え』の回答率を算出し比較を行った。

- 全ての項目で、身内に小中学生がいないの方が、「思う」「やや思う」を選んだ割合が高かった。

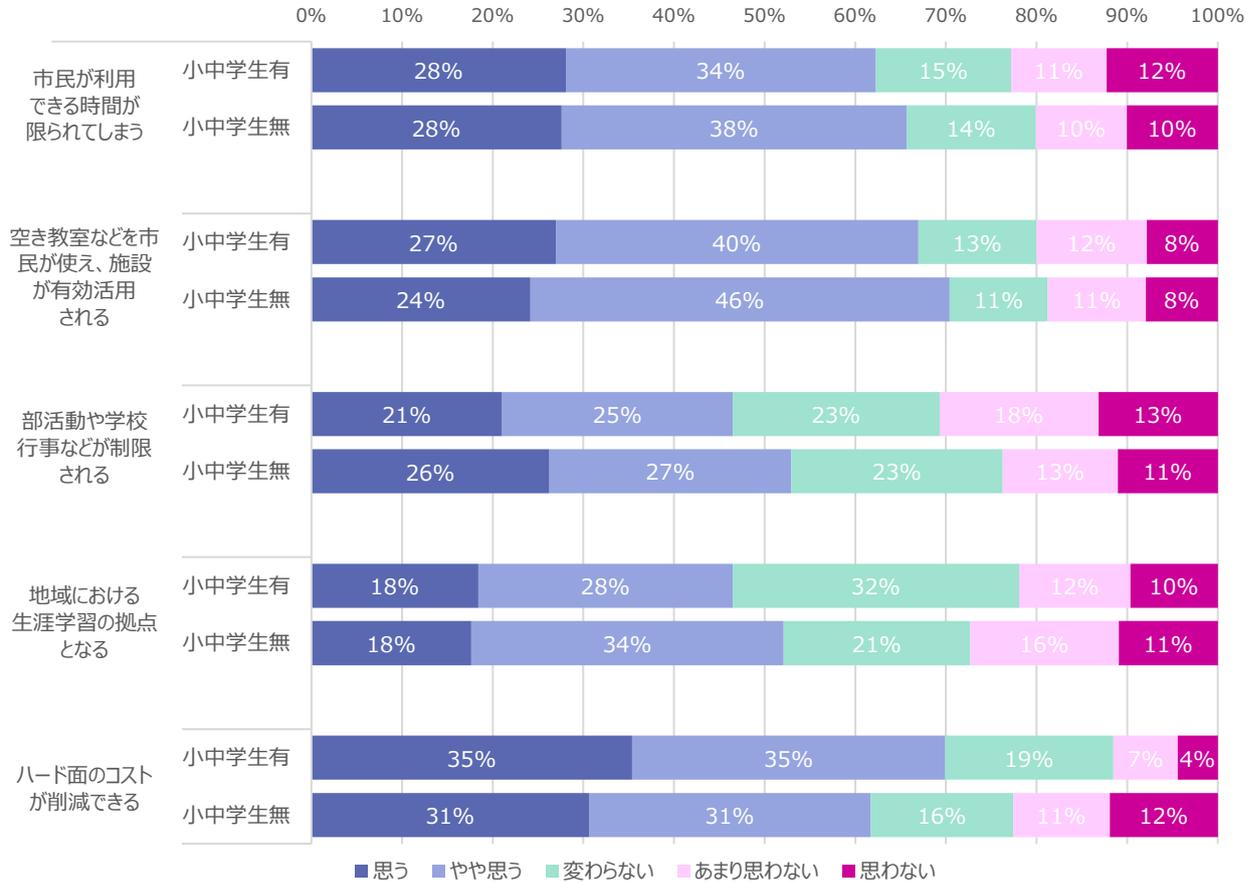


図 2-24 複合化により1つの施設になることについての考え（身内の小中学生の有無別）

表 2-9 複合化により1つの施設になることについての考え（身内の小中学生の有無別） 回答数

	ご自身、ご家族、ご親族で市内の小・中学校に通っているか通う予定がある人がいるか	思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	思わない	無回答 他	有効 回答数
市民が利用できる時間が限られてしまう	いる	32	39	17	12	14	5	114
	いない	66	91	34	24	24	4	239
空き教室などを市民が使え、施設が有効活用される	いる	31	46	15	14	9	4	115
	いない	58	111	26	26	19	5	240
部活動や学校行事などが制限される	いる	24	29	26	20	15	5	114
	いない	62	63	55	30	26	5	236
地域における生涯学習の拠点となる	いる	21	32	36	14	11	5	114
	いない	42	82	49	39	26	6	238
ハード面のコストが削減できる	いる	40	39	21	8	5	6	113
	いない	72	73	37	25	28	3	235

複合化により学校へ不特定多数の人が出入りすることについての考え

3) 全体

- ・ 「学校の防犯面が不安になる」「警備強化など、教職員の労力や管理コストが増える」について、「思う」と答えた人が約6割であった。また、「思う」「やや思う」をあわせると9割近かった。

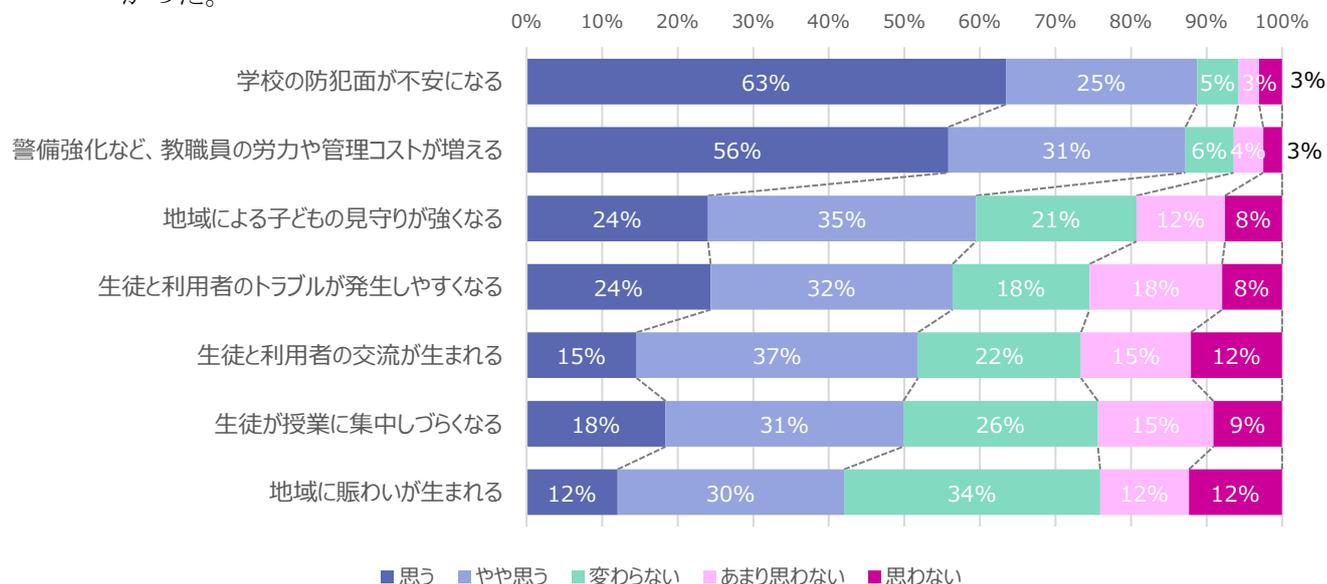


図 2-25 複合化により学校へ不特定多数の人が出入りすることについての考え

表 2-10 複合化により学校へ不特定多数の人が出入りすることについての考え 回答数

	思う	やや思う	変わらない	あまり思わない	思わない	無回答 他	有効 回答数
学校の防犯面が不安になる	231	92	20	10	11	38	364
警備強化など、教職員の労力や管理コストが増える	201	113	23	14	9	42	360
地域による子どもの見守りが強くなる	86	127	76	42	27	44	358
生徒と利用者のトラブルが発生しやすくなる	86	113	64	62	28	49	353
生徒と利用者の交流が生まれる	52	133	77	52	43	45	357
生徒が授業に集中しづらくなる	65	111	91	54	32	49	353
地域に賑わいが生まれる	43	107	121	42	44	45	357

4) ご自身、ご家族、ご親族で市内の小・中学校に通っているか通う予定がある人がいるかどうか別

身内の方に小中学生がいるかどうか別で、『複合化により1つの施設になることについての考え』の回答率を算出し比較を行った。

- ・ 「生徒と利用者の交流が生まれる」は、身内に小中学生がいるの方が、「思う」「やや思う」と回答した割合が高かった。
- ・ その他の項目では、身内に小中学生がいるの方が、「思う」「やや思う」と回答した割合が低かった。
- ・ 身内に小中学生がいるかどうかで大きな傾向の違いは認められないが、いない方のほうが、「思う」「そう思う」とする割合が高くなっている。

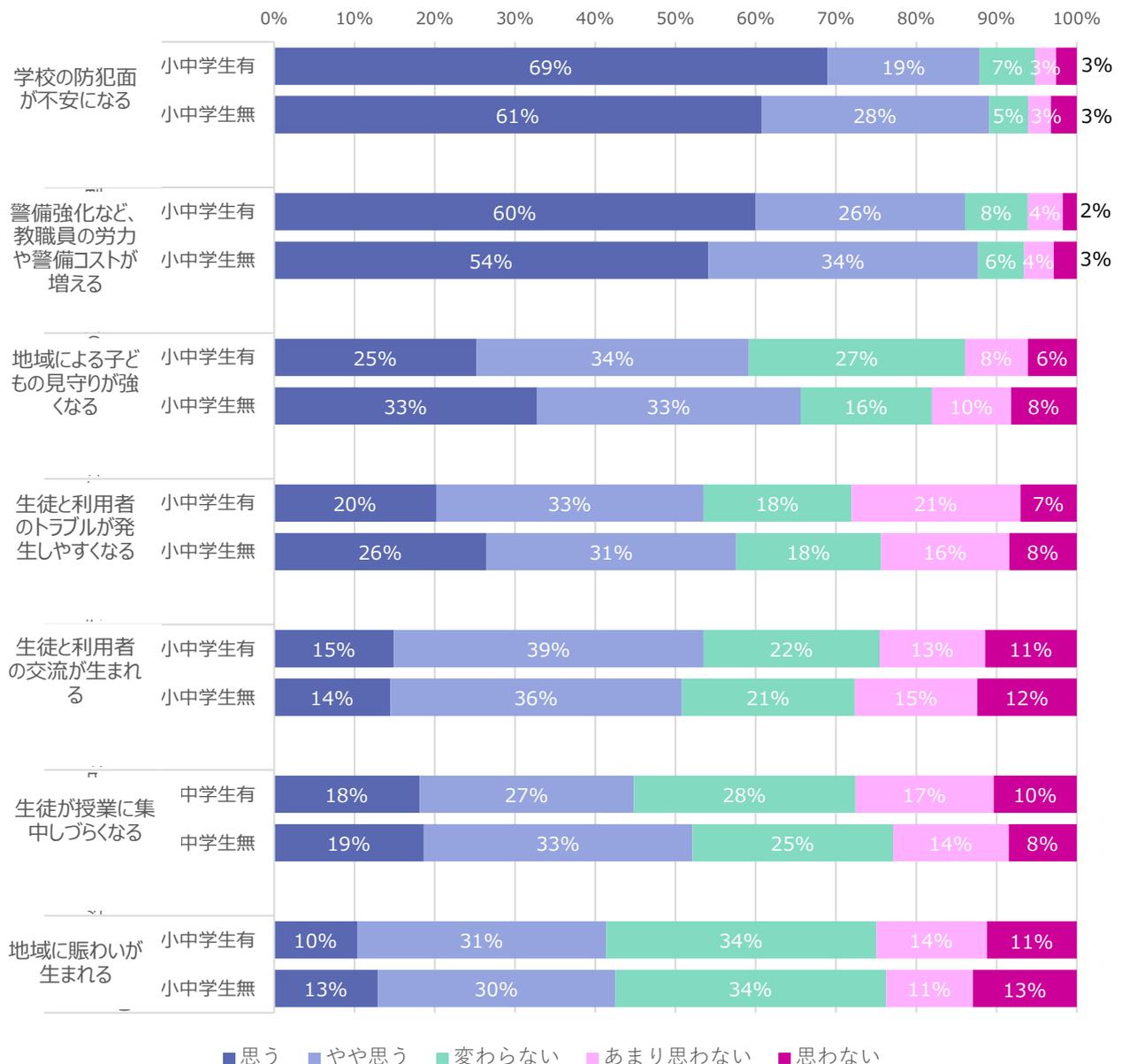


図 2-26 複合化により学校へ不特定多数の人が出入りすることについての考え（小中学生の有無別）

表 2-11 複合化により学校へ不特定多数の人が出入りすることについての考え（小中学生の有無別） 回答数

	ご自身、ご家族、ご親族 で市内の小・中学校に通 っているか通う予定がある 人がいるか	思う	やや 思う	変わら ない	あまり 思わない	思わ ない	無回答 他	有効 回答数
学校の防犯面が 不安になる	いる	80	22	8	3	3	116	3
	いない	150	70	12	7	8	247	32
警備強化など、 教職員の労力や管理 コストが増える	いる	69	30	9	5	2	115	4
	いない	132	82	14	9	7	244	36
地域による子どもの見 守りが強くなる	いる	29	39	31	9	7	115	4
	いない	57	88	44	33	20	242	38
生徒と利用者の トラブルが発生 しやすくなる	いる	23	38	21	24	8	114	4
	いない	63	74	43	38	20	238	42
生徒と利用者の交流 が生まれる	いる	17	44	25	15	13	114	4
	いない	35	88	52	37	30	242	37
生徒が授業に集中 しづらくなる	いる	21	31	32	20	12	116	3
	いない	44	79	59	34	20	236	44
地域に賑わいが 生まれる	いる	12	36	39	16	13	116	3
	いない	31	71	81	26	31	240	40

(3) 学校へ公共施設を複合化することについての考え

1) 全体（回答者数 386 人）

- ・ 「慎重に判断するべき」とした人が最も多く、6割を超えた。

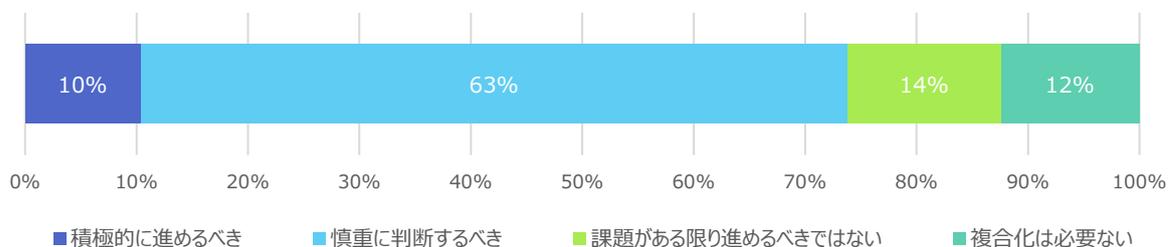


図 2-27 学校へ公共施設を複合化することについての考え

表 2-12 学校へ公共施設を複合化することについての考え 回答数

選択肢	回答数
積極的に進めるべき	40
慎重に判断するべき	245
課題がある限り進めるべきではない	53
複合化は必要ない	48
無回答他	15
有効回答数	386

2) 年代別（回答者数 386 人）

年代別で、『学校へ公共施設を複合化することについての考え』の回答率を算出し比較を行った。

- ・ 10代では、「課題がある限り進めるべきではない」とした方が4割を超えた。
- ・ 20代以上では、「慎重に判断するべき」とした方が最も多く、5～7割であった。
- ・ 20代では、「積極的に進めるべき」とした方はいなかった。

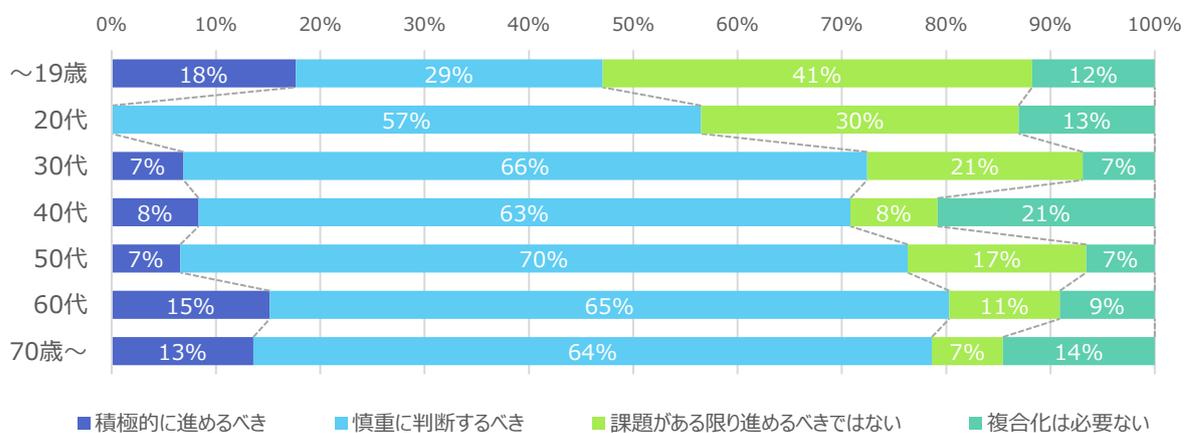


図 2-28 学校へ公共施設を複合化することについての考え（年代別）

表 2-13 学校へ公共施設を複合化することについての考え（年代別） 回答数

	積極的に進めるべき	慎重に判断するべき	課題がある限り進めるべきではない	複合化は必要ない	無回答他	有効回答数
～19	3	5	7	2	0	17
20代	0	13	7	3	1	23
30代	2	19	6	2	2	29
40代	6	45	6	15	0	72
50代	5	53	13	5	0	76
60代	10	43	7	6	1	66
70歳～	14	67	7	15	12	103

3) ご自身、ご家族、ご親族で市内の小・中学校に通っているか通う予定がある人がいるかどうか別（回答者数 397 人）

身内の方に小中学生がいるかどうか別で、『学校へ公共施設を複合化することについての考え』の回答率を算出し比較を行った。

- ・ 身内の方に小中学生がいると回答した方のほうが、「課題がある限り進めるべきではない」と回答した割合が高かった。

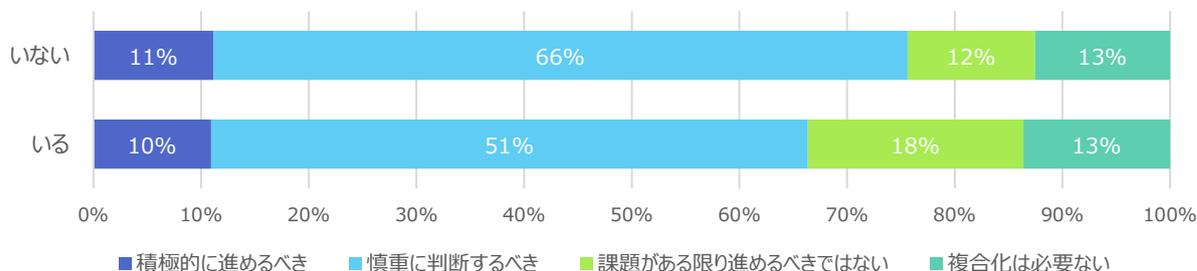


図 2-29 学校へ公共施設を複合化することについての考え（小中学生の有無別）

表 2-14 学校へ公共施設を複合化することについての考え（小中学生の有無別） 回答数

選択肢	ご自身、ご家族、ご親族で市内の小・中学校に通っているか通う予定がある人がいるか	
	いる	いない
積極的に進めるべき	12	32
慎重に判断するべき	61	185
課題がある限り進めるべきではない	22	34
複合化は必要ない	15	36
無回答他	6	9
有効回答数	110	287

2.4 市内に3施設ある福祉センター（公民館）について

(1) 再整備することになった場合、どのような建物にしたらよいか

1) 全体（回答者数 374 人）

- ・ 「様々な機能を兼ね備えたものがよい」が最も多く、6割近かった。
- ・ 次いで、「機能を絞り込んだ必要最低限度のものでよい」が2割程度であった。

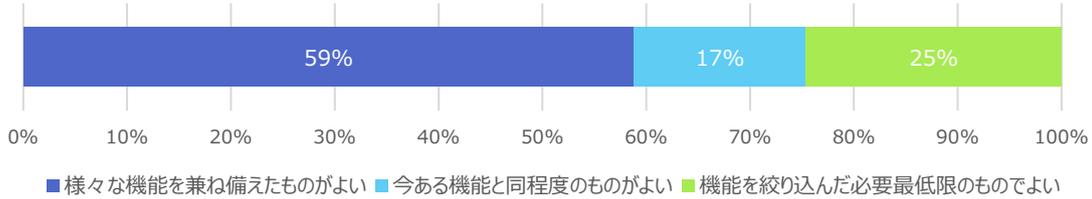


図 2-30 再整備することになった場合、どのような建物にしたらよいと思うか

2) 年代別（回答者数 374 人）

年代別で、『再整備することになった場合、どのような建物にしたらよいか』の回答率を算出し比較を行った。

- ・ いずれの年代も「様々な機能を兼ね備えたものがよい」が最も多かった。
- ・ 60代では、「機能を絞り込んだ必要最低限度のものでよい」が3割程度と他の年代よりも高い割合であった。
- ・ 70代では、「今ある機能と同程度のものがよい」「機能を絞り込んだ必要最低限度のものでよい」と答えた方が同程度であった。

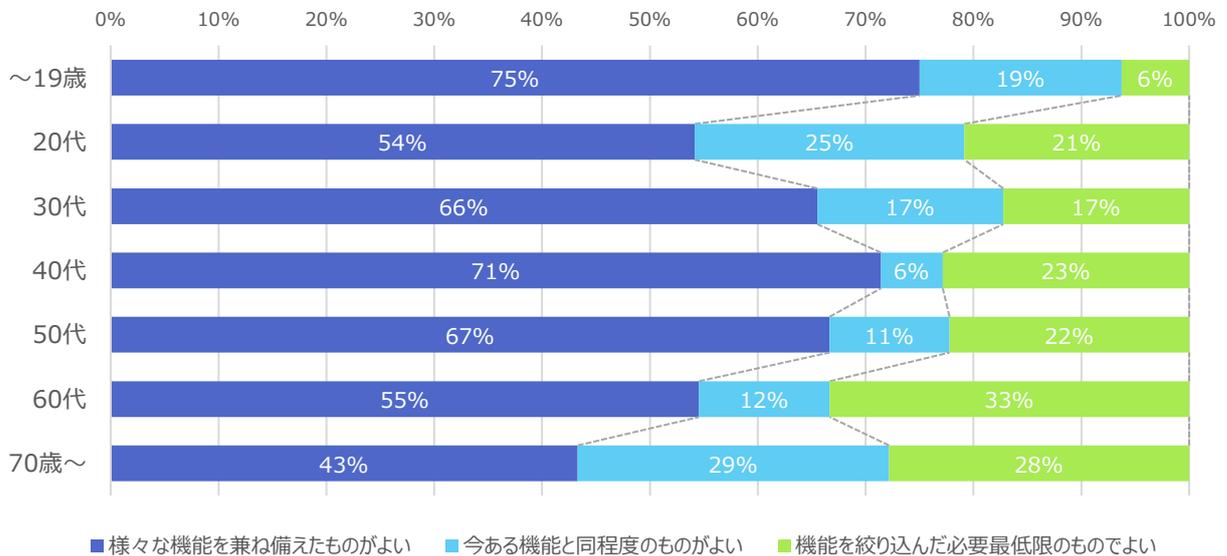


図 2-31 再整備することになった場合、どのような建物にしたらよいと思うか（年代別）

(2) 再整備した際には、どのような場所になるとよいか (3つまで)

1) 全体 (回答者数 359人)

- ・ 「災害時に避難できる」「誰もが利用しやすい」が高く、5~6割となった。

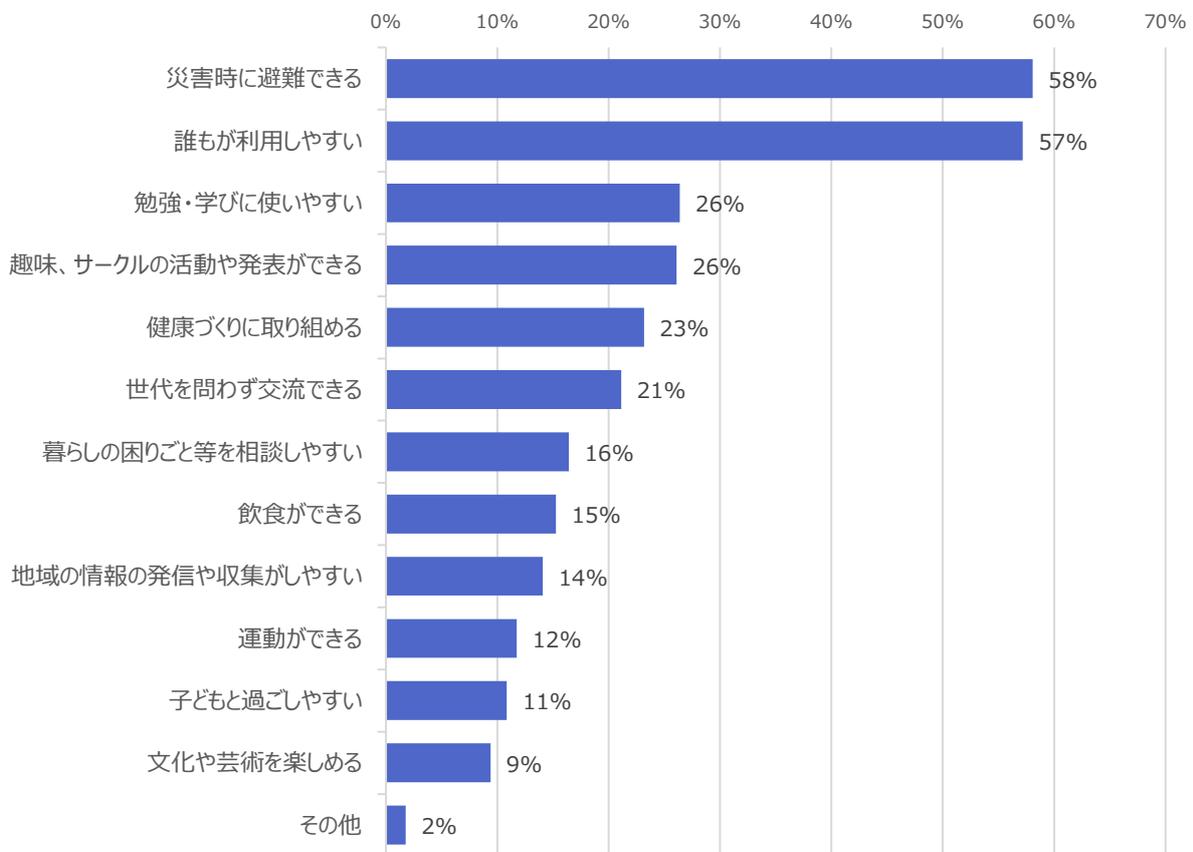


図 2-32 再整備することになった場合、どのような場所になるとよいか

2) 年代別（回答者数 359 人）

年代別で、『再整備した際には、どのような場所になればよいか』の回答率を算出し比較を行った。

- ・ 「災害時に避難できる」は、10代、30代を除き5割以上となった。
- ・ 「誰もが利用しやすい」は、40代が低い割合を示した。
- ・ 「勉強・学びにつかいやすい」は、10代の選択割合が最も高く、7割近くなった。次いで30代、40代の4割程度であった。
- ・ 「飲食ができる」は10代が多く、4割程度の方が回答した。
- ・ 「子どもと過ごしやすい」は30代が多く、5割近くの方が回答した。

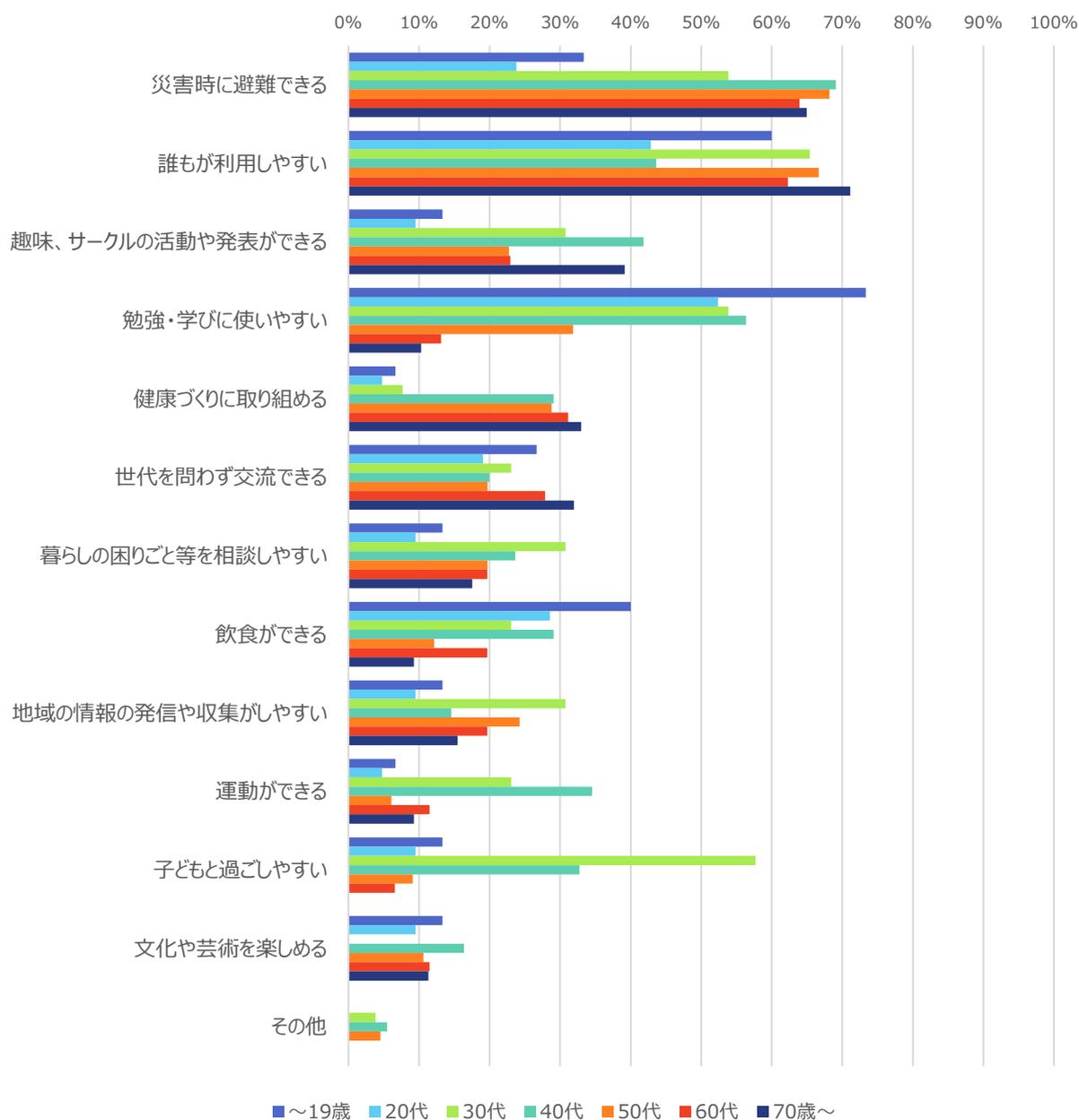


図 2-33 再整備することになった場合、どのような場所になるとよいか（年代別）

(3) 自由回答（回答者数 100 人）

- ・ 自由回答の内容は、「現状の改善」「今ある機能の存続」「新たな機能の整備」「その他」の大きく 4 種類に分類された。

1) 現状の改善

老朽化・暗さ・利用しづらさの改善

- ・ 施設の老朽化、暗さ、活気のなさについて指摘する意見がみられた。

認知状況の向上

- ・ 存在を知らなかった、何ができる施設か知らなかったという意見がみられた。
- ・ 既に備わっている機能を望む声があり、西部福祉センターの機能等についての認知状況の低さが伺えた。
- ・ 戸田市の広報などでの紹介を望む声があった。

アクセスの改善

- ・ 駅から遠い、交通の便が悪い、利用しやすい場所にあるとよい、本庁から遠く不便、駐車スペースが少ないなど、アクセス性についての意見や改善の要望がみられた。

2) 今ある機能の存続・改善

- ・ 乳幼児や親子のためのスペース、遊べるスペースなどを望む声が多かった。
- ・ 図書室が狭い、図書館機能を充実してほしいという意見があった。
- ・ 勉強や調べもの、健康・体力づくり、サークル活動ができるスペースがあるとよいという意見があった。
- ・ 防災拠点としての機能を望む声が多かった。
- ・ 支所機能を残してほしいという意見があった。

3) 新たな機能の整備

- ・ あいパルのようにして欲しいという意見があった。
- ・ カフェやファミレスを望む声があった。
- ・ Wi-Fi 整備などインターネット環境の整備を望む声があった。

4) 複合化

- ・ 美笹中学校との複合化は、防犯面・教育面・学校の負担等から反対する意見があった。
- ・ 老朽化や将来人口の減少のため、別の施設との複合化に賛成する声もみられた。

5) その他

- ・ 世代を問わず楽しめ、交流できる場を望む声があった。
- ・ 年齢を問わず利用できるとよいという意見があった。
- ・ 同じ人が利用している印象があり、利用しづらいという意見があった。
- ・ 買い物などが不便であるという意見があった。